

粳米サイレージ（SGS）の製造・利用 に係る現地研修会の概要



令和6年12月
近畿農政局兵庫県拠点

1. 粃米サイレージ (SGS) の製造・利用にかかる現地研修会の概要

近畿農政局兵庫県拠点、輸入飼料などの価格高騰による生産コスト増対策の現場のニーズを踏まえ、兵庫県及び淡路飼料生産組合の協力を得て、実践的な本研修会を開催。

1. 目的

農林水産省では、飼料用米は国内の飼料生産に立脚した安定的な畜産経営に寄与することから、その生産・利用拡大を進めているところ。飼料用米の低コストでの利用の取組として、破碎した粃米に水と乳酸菌を加え密封し発酵させることにより、粃米サイレージ（以下、「SGS」という。）を製造し利用する取組が普及しつつある。

本研修会は、兵庫県内の飼料生産組織が取り組んでいるSGSの製造・利用について、関係者間で技術に関する情報などを共有し、国産飼料の地域内利用の取組拡大に資することを目的に開催。

2. 開催日時

令和6年11月26日（火） 屋内研修13:00~14:00、現地研修14:20~15:20

3. 開催場所

- (1) 屋内研修 兵庫県立農林水産技術総合センター
淡路農業技術センター 大会議室（兵庫県南あわじ市八木養宜中）
- (2) 現地研修 増田牧場内（兵庫県南あわじ市松帆北方）

4. 参加者

34名（内訳：兵庫県14名、市町7名 JA6名、耕種農家3名、畜産農家2名、飼料会社2名）

5. 内容

- (1) 屋内研修 淡路飼料生産組合のSGSの製造・利用について
講師：南淡路農業改良普及センター 副主任 藤本 実希 氏
- (2) 現地研修 SGSの製造工程の見学（一次保管状況、粉碎・加水作業等）
講師：ファーム翔 上岡 昇平 氏



淡路農業技術センター



増田牧場

2. 屋内研修の概要

淡路飼料生産組合のSGSの取組状況等について、講師の南淡路農業改良普及センター藤本副主任から説明した後、質疑応答。参加者からは乳量変化や飼料コストなどに関する質問があった。

(1) 屋内研修の様子



阿部地方参事官からのあいさつ



藤本副主任の講演



講演の様子



質疑応答

(2) 主な説明内容

- ① SGSについて
- ② 取組に至った背景
- ③ SGS生産のメリット
- ④ SGS生産の概要（栽培、製造）
- ⑤ SGS利用状況
※説明資料は別添

(3) 主な質疑応答

- SGSを肥育牛に給餌することは可能か。
→ 可能。全国的にみると給与している事例はある。南淡路地域では、SGSに関心のある肥育農家もありSGSを紹介するが、給餌までは至っていない。
- SGS製造後のカビ対策は。
→ 食塩を加え、空気を抜いてサイレージ化している。
- SGS給餌前後で乳量の変化はあるのか。
→ 給餌開始後に一旦乳量は減少したが、その後給餌前まで回復。SGS給餌前後で乳量の変化はない。
- 飼料コストにある「配合」は「配合飼料」のことで、その量を減らしたのか。
→ 配合は配合飼料のことである。配合飼料の量を減らしただけで同じ配合飼料である。

3. 現地研修の概要

増田牧場において、淡路飼料生産組合の構成員であるファーム翔の上岡氏の説明を受けながら「SGSの製造工程」を見学。参加者からは粃米の保管方法やSGSの利用期間などの質問が相次いだ。

(1) 現地研修の様子



上岡氏から製造工程の説明



熱心に説明を聞く参加者

(2) 製造工程

①フレコンの保管状況（1次保管）



- 粃の水分は立毛乾燥させ約18%程度で収穫。
- フレコン重量は約600kg

②粉砕作業



- 粃米はローラーミル方式で粉砕。
- 今後、淡路瓦の製造に使用する粉砕機の導入を検討。

③加水作業



- サイレージ化に適した水分（30～35%）となるよう加水。
- 乳酸菌も添加。

④梱包作業



- フレコンに内袋をセットし粉砕米を充填。
- カビ対策の塩を加えて、掃除機を使用し脱気。
- フレコンの重量は約400kg。

(3) 主な質疑応答

- 収穫後の粃米の保管方法は。
→ フレコンに内袋をセットし粃米をコンバインから投入。カビ対策のため内部の空気を抜き密閉。保管場所は施設外で保管。重量は600kg/フレコン。
- 製造段階で加水しているが、フレコンの下部に水が溜まることはないか。
→ 水が溜まるまでのことはないが、水分は下部の方が高くなるので給餌する前にストックヤードにSGSを広げて水分が均等となるように調整している。
- SGS製造後の保存期間は。
→ 1年間可能。
- 粃の水分が18%になった確認は誰が行うのか。
→ 自分（上岡氏）が全てのほ場を確認し、収穫の可否を判断。